

会員のひろば

「ふるさと案内人」世話人

光台7丁目 渡辺 均さん



「相楽郡精華町」と掛けて
「武内宿禰の魂」と解く、心は
「大いなる和の息づく処」なり

シルバー人材センターの有志と共に「精華町ふるさと案内人」の会を発足させる為の下調べが着々と進んでいます。特に「古代史」に関して「相楽郡精華町」の存在感をアピールする確証を得ました。

精華町の中央を南北に連なる丘陵は古くから甘南備(かんなび)の丘と呼ばれていたそうですが、南の「畑ノ前遺跡」から北の「鞍岡山」山麓に至る里道を、私達は「精華古道」と名づけました。およそ5.5キロのその古道の中ほど、北稻八間地区に、武内宿禰(たけうちのすくね)を祀る「武内神社」があります。

武内宿禰は「大和(日本国)統一の父」とも言うべき伝説的人物です。

その政治手法は「和」の精神で貫かれ、多くの氏族に信頼され多くの氏族の祖と奉られています。そして、古代豪族「葛城氏」の始祖でもあります。

葛城氏といえば金剛・葛城山麓(現在の御所市・大和高田市)を本拠地にして、5世紀の大和王権を支えた葛城襲津彦(かつらきそつひこ)をはじめ、歴代王朝の政事を中心であり続けた氏族です。

蘇我氏のように一族独裁を目論んで滅ぼされるようなこともなく、皇室の最も重要な宮中祭祀は中臣氏(後の藤原氏)に任せ、専ら政治、経済、海外交易で力を発揮、地方の豪族とは常に協力関係を築いていました。

特に、朝鮮半島北部の高麗人(こま)の先端技術を重用。自らの交易ルートを活用して渡来人を集団で受け入れ定住させたようです。その地が、相楽(さがらか)＝渡来地として幸先良い住み良い処。即ち、木津川を挟んだ現在の相楽郡精華町・木津町・山城町にあたる地です。

地名にも旧跡にも上狛・下狛・高麗寺など、古代からの由緒をあらわす呼称が現代に生きています。

その精華町南部丘陵地帯に文化学術研究都市として開発された「精華台」「光台」「桜が丘」地区にこそ国際的な「和」の発信地として「武内宿禰の魂」が甦っているのです。まさに大いなる和が息づく処なのです。

「精華町ふるさと案内人」はシルバー・パワーです。どこまで体力・気力が続くか先行き不透明です。町行政の効率よいバックアップを待っています。

初心者のための パソコンの訪問指導

お問い合わせはセンター事務所へ

- 安心、受講者の都合の良い時間に合わせてパソコン教室の講師(会員)が訪問します。
- 安い、受講料はシルバー価格で奉仕しています。(時間当たり1,210円から相談)
- 親切、ご自宅のパソコンを使って原則としてマン・ツー・マンで対応します。

